

NEWS LETTER

~岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で!~

Index	
■ご挨拶	1
■トピックス	
□地域課題解決プロジェクト	2~3
□高校生とのワークショップ	4
□いわて学	5
□危機管理と復興	5
□高大連携ウィンターセッション	6
□平泉文化フォーラム	6
□被災地学習支援交流プロジェクト	7
□いわて高等教育コンソーシアム シンポジウム	7
■特別寄稿	0
「復興へのメッセージ」	8
■ 復興へ《第4回》	8

ご挨拶

学長として「いわて高等教育コンソーシアム」の一員となり、ほぼ1年が過ぎようとしています。この機会に、コンソーシアムの役割とはなんであろうかと自問自答してみました。

まず、大学の役割ですが、「大学とは人類の未来 と社会の発展に貢献するという使命を果たすべく、 市民、社会の中に大学が同じ目線で入り、人類・社 会が抱える問題を共有し解決に向けて努力するとこ



岩手県立大学 学長 鈴木 厚人

ろ」と捉えています。この意味において、社会が変動する限り大学も変動し、 その中から新しいものを創造しなければなりません。

社会が少子高齢化の時代を迎えた今、大学の責務はディプロマポリシーをより明確にし、それを実現すべきカリキュラムポリシーを充実させることによって、大学の使命を質・実の両面で全うすることにあるといえます。

各大学が建学の理念を掲げてその実現に努力する中で、理念の一部、または 理念から派生する目的の一部が、コンソーシアムの設立目的と合致するもの、 関連するものがあります。ここで、コンソーシアムの在り方が問われます。

コンソーシアムの役割1として、各大学間で競い合う場を提供することがあります。それによって個々の大学の実績・実力が向上し、結果として全体で大きな成果が創出されることになります。

役割2は、競争ではなく逆に協力体制を整備して協働によるスケールファクターを超える効果を導くことです。特に、後者の役割には大きな魅力があります。物理学の世界では、共鳴現象というものがあります。幾つかの個々の現象の位相が揃う時、例えば、個々が同一目的で足並みを揃える時に、単なる足し算ではなく新たな力(多体力)が生じて、想定外の共鳴現象が発現します。コンソーシアムにおいて、このような新共鳴現象による成果の創出を大いに期待したいものです。

コンソーシアムの設立目的に、"地域の中核を担う人材育成"、"大学進学率の向上"、"地域社会への貢献"とありますが、特に、"大学進学率の向上"においては、大学進学率を全国平均以上にする努力が、喫緊の課題と考えます。また、"地域社会への貢献"を実質的に実り多いものにするには、「いわて未来づくり機構」との連携が必須になります。これらの課題に対しては、役割2の協働による共鳴現象の発現を呼び起こす方策が有効ではないでしょうか。

今日の自問自答を念頭に置き、これからのコンソーシアムの仕事に関わらせていただきます。

Topics

高校生と大学生等による 地域課題解決プロジェクト ~ 久慈市第2次総合計画重点戦略"いつまでも 住み続けたいと思うまちづくり"への取り組み ~

地域リーダー育成プログラムの開始

この地域課題解決プロジェクトは、本年(H27)度から実施している「地域リーダー育 成プログラム | の主要な活動で、学生は、指定されたコア科目の単位を修得し、このプロ ジェクトを遂行して審査に合格すれば「地域を担う中核的人材認定証 | を受け取ることがで

高校生と大学生等による取り組み

本年度は、連携校の学生(21名:岩手大18、盛岡大2、一関高専1)と久慈地域の高校生 (20名: 久慈7、久慈東9、久慈工業4) が3班に分かれて、久慈市が策定する第2次総合 計画の重点戦略「いつまでも住み続けたいと思うまちづくり」への貢献を目指してプロジェ クトを始動しました。

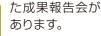
活動は、久慈市現地での活動として、土日の1泊2日を3回、日曜の日帰りを3回行い、 加えてテレビ会議(岩手大 ≒ 久慈高校 ≒ 一関高専)を4回行っています。また、学生& 生徒間では LINE や SNS を使ってそのつど情報共有をしていました。

活動期間が11月末から2月末という厳冬期だったことや、内陸部から沿岸部への移動、 活動日ごとに参加できる人数の変動などの制約の中、各班は、自ら発案したプロジェクトを 遂行するため、自力で企画を練り、交渉等を行ってきました。

課題解決に向けた実践活動

2月28日(日)には、くじ冬の市(B1グランプリなど)に合わせた手作りイベントとして、 2班が「くじっ子大集合!~くじマスターにトライ!ようかい体操もあるよ!~1、3班が「高 校生による高校生のための駅前居場所作り ~ TAMARIBA ~ | を実施しました。(1班は三 陸鉄道の活用がテーマのためイベントは未実施。)

3月21日(月・祝)には、道の駅くじ「やま せ土風館」にて、これまでの活動実績から得





TV会議システムでのミーティング







後藤 尚人 教授





初日のキックオフイベントでの集合写真





久慈市でのフィールドワーク



高校生や他大学の学生、また先輩 たちと一緒に活動することで話し合 いが活発になった。それゆえ活動の 方針をまとめていくのは大変だった が、どの意見も新鮮で、自分の考え が広がった。

実際に足を運ぶことで、久慈の良い所をたくさん見 つけられた。直面する問題について真剣に考え、解決 に向けての活動も積極的に参加することができた。自 分たちが地域のために出来ることは多くあるのだと

(岩手大学農学部1年 大宮 美緒さん)



様々な制約があるなかでの企画 はかなり厳しいものでしたが、班員 やご協力くださった皆様のお陰で 満足のいくものにできました。久 慈の課題解決に近づけたか確信は ありません。

ただ、参加した地元高校生が各々気づきを獲得す るきっかけにはなったと思います。この気づきの芽が どんな花を咲かせ、新たな種を生んでいくのかとて も楽しみです。ありがとうございました。

(岩手大学教育学部4年 阿部 奈緒さん)



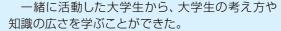
高校生にとって、飲食も会話も勉 強も何でもできる居心地の良い場 所が欲しい。これは活動を共にした 久慈地域の高校生が声を揃えて話 していた事です。私たちの班ではこ の課題解決のため、TAMARIBA

(たまり場) のモデル店舗の設置に取り組みました。 行政やNPO、地元商店会、多くの高校生の協力を経 て、企画立案から実践まで遂行できた事が私たちの 一番の成果です。こういった一連の活動の機会を与 えていただいた関係者の皆様には改めて感謝申し上

(岩手大学教育学部4年 日向 一樹さん)

久慈市にずっと住んでいるが、久慈市の問題点 を考えたことが無かった。住んでいる地域に関心 を持つこと、変えていくことの大切さを学んだ。

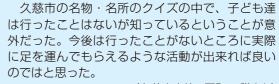
(久慈東高校 日向 千春さん)



(久慈東高校 石崎 日菜さん)

今まで自分で企画し、何から何まで行動すること がなかったので参加できてよかった。

(久慈高校 柿木 利生さん)



(久慈東高校 下町 一稀さん)

今回の活動を通して、私達に共感し、協力して下 さる方がたくさんいるということが分かりました。 それが何よりの収穫です。

(久慈高校 太田 倫太郎さん)

電車通学の途中、休憩する場所がなくて困ってい た。今回、居場所のモデルを作ってみることができて 良かった。中高生が行うイベントがあまりないので、 継続すれば多くの人が商店街にきてくれると思う。

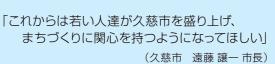
(久慈高校 佐々木 香歌さん)

続けてほしい、そのためにはまた協力したい」 (出展店舗貸し出しにご協力いただいた

「今日のような若い人達が活動することを今後も

協同組合 久慈銀座商店会 理事長 桑畑 貞男さん)







※紙面編集の都合上、2月28日(日)までの活動をもとに執筆しています。









第5回 被災地の高校生とコンソーシアム連携校の学生が ともに学ぶワークショップ

第5回被災地の高校生とコンソーシアム連携校の学生が ともに学ぶワークショップを、平成27年11月21日(土) に遠野市(遠野市総合防災センター)で開催しました。

今回は「ふるさといわての復興と創生~若者が生き生きと暮らせる街~」をテーマに、遠野高校(10名)、遠野緑峰高校(6名)、大槌高校(2名)、釜石高校(7名)、大船渡高校(5名)、久慈東高校(5名)の総勢35名の高校生の皆さんが、コンソーシアム連携校の学生8名(岩手大学7名、盛岡大学1名)とともに活動しました。

参加者は、岩手県復興局復興推進課の菊池 学推進協働 担当課長による岩手県における復興の取組と現状に関する 説明を踏まえた上で、人口減少が加速する被災地において 若者がいきいきと暮らせる地域を創造する具体的な方策に



岩手県復興局 菊池 学推進協働担当課長による復興への取り組み等説明



高校生と大学生の班毎のグループワーク

ついて、グループ毎に活発な意見を交わしました。8班に分かれてのグループワークでは、若者にとってふるさとの「不満なところ」と「魅力」を出し合うことで、自分が住む地域のことを改めて考え



ワークショップを進行する 脇野 博教授

るよい機会になり、若者がマイナス意識を抱く事柄でも、 発想の転換で若者にとっての魅力としてアピールできる可 能性があるという新たな視点を得て、それぞれが描く未来 のふるさと像を明確にしました。

グループ毎にそれぞれまとめたアイディアの発表に対し、 菊池課長からは「若者が自分のふるさとの将来について、 自ら考え仲間と議論することが大切である。」との講評があ りました。進行役である岩手大学の脇野 博教授からの「今 日皆さん一人ひとりがふるさとについて真剣に考えた、とい うことがすでにふるさとを変える一歩になった」との総括 どおり、次世代を担う若者同士が互いに刺激を受けながら、 ふるさとの幸せな未来の創造について懸命に学び合う非常 に有意義なワークショップとなりました。



ワークショップ発表の様子

◆これまでに開催したワークショップ

開催年度	日程	テーマ		
平成27年度 (第5回)	平成27年 11月21日 (土)	ふるさといわての復興と創生 ~若者がいきいきと暮らせる街~		
平成26年度(第4回)	平成27年 3月15日(日)	34ノツの煙ノこスキレ剑の しがはっても去せに苔にせては		
平成26年度(第3回)	平成26年 11月22日(土)	- 強く光り輝くふるさと創り ~人が減っても幸せに暮らせる街~		
平成25年度(第2回)	平成25年 6月29日(土)	私たちの未来を考える ~岩手県復興実施計画 (第2期) 及び三陸創造プロジェクトへの提言~		
平成24年度 (第1回)	平成24年 8月19日(日)	復興を担う人材像とは?		

平成27年度後期「いわて学」 ~ 平泉から知るいわて〈いわての復興を考える〉~

いわて5大学の共通授業「いわて学」は、平成22年度から開講し、前期・後期の2つの授業を行なっています。

平成27年度後期は、「平泉から知るいわて」をテーマに、10月10日(土)から11月28日(土)まで15回開講し(履修登録者32名、単位修得者14名)、平泉を支えたいわての地域資源に目を向けるとともに、平泉を成立させた過程(平泉前史)について学びを深めました。

その中で、胆沢城がその拠点性を強めた第II期に、胆沢城の北 10kmに位置する国見山一帯に仏教の一大聖地が形成されたことや、平泉の寺院群で見られる各種様式が国見山廃寺の寺院群で既に成立していたこと等を知り、仏教都市「平泉」の

	日程	内 容	講師
1.2	10/10 (土)	○平泉を成立させた過程の概要説明○グループワークで考える平泉	岩手県立大学 豊島 正幸
3	10/17 (土)	○文学から知る平泉	盛岡大学 塩谷 昌弘
4.5.6	10/31 (土)	現地講義 ○志波城古代公園の視察 ○「遺跡から見た古代から中世」 ○「平泉を成立させた歴史的背景」	・志波城跡愛護協会見学案内スタッフ ・盛岡市遺跡の学び館職員 ・盛岡大学 熊谷 常正
7.8.9	11/7 (土)	現地講義 「古代北方支配の拠点としての胆沢城」 「奥州市埋蔵文化財調査センター及び胆沢城跡の視察 「平泉に先立つ仏教の一大聖地:国見山廃寺」 北上市埋蔵文化財センター及び国見山廃寺跡の視察	・奥州市埋蔵文化財調査センター職員・北上市博物館職員
10-11	11/14 (土)	現地講義「浄法寺漆について」 ○浄法寺漆の視察 ○浄法寺漆歴史民俗資料館の視察 ○浄法寺漆イベントの視察	· 滴生舎職員 · 浄法寺歴史民俗資料館職員
12	11/21	○海を渡った鉄 −蕨手刀·鉄鍋·南部鉄−	岩手県立博物館 赤沼 英男
13	(土)	○天平産金とその時代	宮城県涌谷町教育委員会生涯学習課 福山 宗志
14	11/28	○観光の広域連携について	花巻観光協会 伊藤 新一
15	(土)	○グループワーク	岩手県立大学 豊島 正幸

成立を理解するための基盤を得ることができました。また、5大学教員の他、外部講師による講義、大学混成のグループ学習を通じて、学生が主体的にいわての地域特性を考え、そしてそれらをどのように活用していくかについてアイデアを出し合う機会となりました。



志波城古代公園の視察

平成27年度「危機管理と復興」

「危機管理と復興」は、危機管理や防災、都市計画、地域コミュニティ再生などに関する知識を学ぶとともに、グループワークや合宿講義等の実習をとおして、復興の担い手に必要な知見と能力の習得を目的としています。

全国大学コンソーシアム協議会を通じて名乗り出ていただいた教員ボランティアによる講義は今年で4年目を迎え、今年度は平成27年10日24日から12日19日まで、土曜日・日曜日を全7日15回の講義

度は平成27年10月24日から12月19日まで、土曜日・日曜日を全7日 15 回の講義を実施しました。

受講者は岩手大学の18名で、今年度は10月31日~11月1日に陸中海岸青少年の家での1泊2日の合宿講義と被災地研修を取り入れて内容を充実させ、より実践的な学びにつなげることができました。



講義を行う金沢工業大学の神山藍護師

	実施日	内 容	講師	所属
1	10/24	オリエンテーション	江本 理恵	岩手大学 教育推進機構 准教授
2	(土)	東日本大震災と岩手県での対応	越野 修三	岩手大学 地域防災センター 教授
3.4	10/31 (土)	危機管理 都市と景観	村田 静昭	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
5.6	11/1 (日)	被災地研修	神山 藍	金沢工業大学 環境·建築学部 講師
7.8	11/21 (土)	地域コミュニティ再生	室田 昌子	東京都市大学 環境学部 教授
9.10.11	12/5 (土)	防災教育 都市防災	城下 英行	関西大学 社会安全学部 准教授
12	12/6 (日)	被災地研修	和泉 潤	名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部 特任教授
13.14	12/19 (土)	防災とメディア情報	畑 祥雄	関西学院大学 総合政策学部 教授
15		振り返り:グループワーク	後藤 尚人	岩手大学 人文社会科学部 教授

平成27年度 高大連携「ウィンターセッション」

いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会が共 催で実施しているウインターセッションは、県内の高校生 が進学意識を持ち、意欲的に取り組むことを期待して毎年 12月に実施しているものです。平成27年度は、12月 25日(金)~12月27日(日)の3日間開催しました。

初日は、全体会として、盛岡市民文化ホール(マリオスホー ル)を会場として実施しました。この全体会では、大学の人文・





社会科学分野、理学·工学·農学分野、医学·歯学·薬学

分野に分けて概要を説明し、大学教育の全体像の理解を図

りました。そして、26日~27日の2日間は各大学に分か

全体会の様子

第16回平泉文化フォーラムを開催

第16回平泉文化フォーラムが平成28年1月30日(土)・ 31日(日)に一関市の一関文化センターで開催され、2日間 のべ約500名が参加しました。

初日は、はじめに開会行事として、主催者側からいわて 高等教育コンソーシアムを代表し、岩渕 明岩手大学学長、 岩手県教育委員会高橋嘉行教育長が、次いで地元の一関 市教育委員会小菅正晴教育長が歓迎の挨拶を行いました。 フォーラムは東京大学大学院教授佐藤信氏の基調講演から 始まり、古代国家から中世への変換という観点から日本史 上の平泉の位置について、わかりやすい説明がありました。

続いて2名の報告者から柳之御所遺跡の調査成果等の遺 跡報告があり、その後3名の研究者から平泉に関わる歴史 学・考古学からの研究報告が行なわれました。

2日目は、3名の報告者による無量光院跡の調査成果等 の遺跡報告があり、続けて平泉藤原氏の権力基盤をめぐる 問題、平泉の祭礼を中心とした都市生活の研究等、合わせ て3名から研究報告がありました。いずれも平泉文化研究 の最新の状況を示す調査研究報告で、会場からも多数の質 問・意見が寄せられ、充実した2日間となりました。



基調講演を行う佐藤 信氏



会場の様子

《日程》 平成28年1月30日(土)~31日(日) 《会場》 一関文化センター

プログラム

[1月30日(土)]

基調講演 「日本史上の平泉の位置-古代国家から中世への変換-」

(東京大学大学院教授 平泉遺跡群調査整備指導委員 佐藤 信)

遺跡報告 骨寺村荘園遺跡の調査成果(一関教育委員会)

遺跡報告 柳之御所遺跡ほかの調査成果(平泉遺跡群調査事務所)

研究発表 日本中世における平泉寺の立地について

(岩手大学平泉文化研究センター特任教授 伊藤博幸)

研究発表 ポータブル複合 X線分析による白磁と青磁の胎土分析 - 中国及び平泉出土資料の比較

(岩手大学平泉文化研究センター 會澤純雄・平原英俊・三浦謙一)

研究発表 11世紀における陸奥と京都

(宮城県教育庁文化財保護課 宮城県立東北歴史博物館学芸員 滑川敦子)

【1月31日(日)】

遺跡報告 無量光院跡の調査成果 (平泉町教育委員会)

遺跡報告 白鳥舘遺跡の調査成果 (奥州市世界遺産登録推進室)

研究発表 平泉の四面廂建物と古代官衙遺跡との比較検討(山形大学准教授 荒木志伸)

研究発表 平泉の都市生活-都市と祭礼

(奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員 前川佳代)

研究発表 平泉藤原氏の権力基盤に関する基礎的研究・中間報告(3)

(東北学院大学教授 七海雅人)

平成 27 年度研究集会「アジアにおける平泉文化」の概要

(岩手県教育委員会・一関市教育委員会・奥州市教育委員会・平泉町教育委員会)

被災地学習支援交流プロジェクト ~ 岩手大学 合気道部 ~

11月8日に山田町の武徳殿にて、学習支援交流プロジェ クトとして、合気道体験教室を行いました。これは、沿岸 を中心とする被災地の青少年を対象に、岩手大学合気道部 の学生が合気道の指導を行うもので、合気道を通した学習 支援交流を目的として開かれました。

当日は、釜石市、大槌町、宮古市、盛岡市から計13名 の小中学生、高校生が集まり、岩手大学合気道部の学生 18名とともに合気道の稽古に励みました。参加した大学 生にとって、被災地の青少年とともに稽古をすることは、 技の基本の再認識や初心者に対する指導法の発見等、非 常に有意義な学びの機会となりました。また、被災地を実 際に目にすることで、復興までは未だに長い道のりがある ことを知り、これからの復興について考えることにも繋が りました。参加した青少年らは、はじめは緊張していました が、技を褒められたり、やさしく声をかけられることで、段々 と打ち解けた様子になっていきました。





合気道部指導の様子

平成27年度 いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム 「高等教育機関に期待される グローバル化への対応と地域再生への役割について」

平成 27 年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウ ムが平成28年2月6日(土)にベリーノホテルー関を会 場として開催されました。いわて高等教育コンソーシアム は多様な領域で地域の中核を担う人材育成を柱に、様々な 活動を実施してきました。毎年シンポジウムを開催しており、 今年度は「高等教育機関に期待されるグローバル化への対 応と地域再生への役割について」をテーマとしました。

基調講演では大谷大学文学部教授 荒瀬克己氏を講師に お招きし「デザイン力のある若者を育てる」と題し、公立 高校で実践された課題探求型学習を中心に述べられまし た。コンソーシアム構成校からは今回のテーマに則してグ



パネルディスカッションの様子

ローバル化や地域課題へ の取り組み状況について 報告が行われました。パ ネルディスカッションでは 各構成校の取り組みを報 告したパネリストから発展 的な意見がだされ、情報 の共有をしました。



基調講演を行う荒瀬克己氏

プログラム

【基調講演】

「デザイン力のある若者を育てる」

大谷大学文学部教授 荒瀬克己氏

【コンソーシアム構成校からの取組報告】

岩手大学教育推進機構教授 松岡洋子 岩手県立大学地域政策研究センター長・植田眞弘

岩手医科大学教養教育センター教授 ジェイムズ ホッブス 富士大学経済学部経済学科長 影山一男

盛岡大学文学部准教授 新沼史和 放送大学岩手学習センター所長 橋本良二

一関工業高等専門学校准教授 若嶋振一郎

【パネルディスカッション】

コーディネーター 一関工業高等専門学校副校長 明石尚之 パネラー(構成校からの報告者)

京都産業大学 教授 大室 悦賀氏 前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」 担当講師 東京都市大学 教授 室田 昌子氏 後期集中講義「危機管理と復興」 担

担当講師

「他人の作った未来に不満を言って 過ごすか。自分で苦労して未来を想像するか? 皆さんだったら、どちらを選びますか?」

この言葉は、震災以降毎年1年生に投げかけているものです。皆さんだったらなんと答えますか?

震災後すでに5年という歳月が過ぎようとしています。これまで多くの資金援助が政府など公的機関や民間からおこなわれてきました。しかし、これからは政府に依存しない復興が求められていきます。そこには市民の力が欠かせません。しかも、政府の資金に依存しないと言うことは、市民一人一人はもちろんのこと、民間資金を利用し、企業やNPOといった組織が重要な役割を果たしていかなければなりません。

「ボランティアとリーダーシップ」の中でソーシャル・ビジネスを担当させていただいた。ソーシャル・ビジネスとは社会的課題の解決にビジネスを活用するという手法のことで、近年世界的に注目を浴びている。たとえば震災直後、働く手段が無くなった女性たちに誰でも比較的簡単に取り組めるかぎ針編みブローチをつくる「EAST LOOP」といった事業

があります。もちろんこのような事業を立ち上げる企業家も重要ですが、この商品を消費する人も重要な役割を担います。



このように企業やNPOも重要にな

りますが、それを支える我々一般市民の参加が復興に欠かせません。そのような意味から、政府が作った復興支援プログラムに不満を言って過ごすのか、自分たちにできることを小さくても、苦労してでもやっていくか。あなたは、どちらを選びますか?

私は、今回、「危機管理と復興」のなかで 「地域コミュニティ再生」を担当させていただきました。

これまで、高齢化した住宅地や衰退しつつある商店街、郊外地域などの再生に取り組んできました。都市やその周辺部、あるいはドイツやイギリスなどの問題地域の再生の研究や、地域の住民ニーズや行動を把握したり、住民の方々と共にプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクトの評価や効果を図ったりと言うことをしております。

そのなかで、地元の皆さんが盛り上がるのは、地域の様々な資源を再評価し、その活用方法を見いだすことです。地域資源には、地域の自然、空間、産業や技、歴史文化、地域活動等が含まれ、さらにそれらを支える人材も含まれます。どんな資源もそれを支える人なしには成立しませんので、支えている人が見えると言うことはとても重要なことかと思います。そして災害は、これらの地域資源を一気に葬り去り、さらに支えていた方々も奪っていくものですから、それを復活させることは並大抵のことではないと思います。

東日本大震災から5年が経過した現在、道路が整備されたり鉄道が復旧したり、盛り土が完了したり、少しずつ住宅が完成したり、大きな復興公営住宅に入居が始まったりと、復興は進みつつあるように見えるかもしれません。しかし、もともとそこにあった地域資源をどのように復活させ、それを支えてきた人々やその技がどのように継承できうるのかが重要なことだと思いますが、大変難しい問題かと思います。その部分ができないと地域を継承したことになりにくいと思うわけですが、その仕組みがないことが問題と感じています。

【特別寄稿について】

この特別寄稿は、いわて高等教育コンソーシアムが平成24年度より新規に立ち上げた特別集中講義で全国の大学からボランティアで講師をご担当いただいた先生方から、「復興へのメッセージ」をテーマに、いわて高等教育コンソーシアム集中講義での担当講義の概要説明や、講義を担当したことで改めて感じたこと、所属大学での復興へ向けた取り組みの紹介、被災地・被災者へ向けたメッセージ等について寄稿していただいたものです。

~復興へ~〈第4回〉

東日本大震災発災後に「学長宣言」を出し、いわて高等教育コンソーシアムでは、被災者へのお見舞いに加えて、復興 を担う人材育成を連携の力で取り組むことを確認しました。

その年末には「地域を担う中核的人材育成事業」を開始し、復興の拠点形成、学生によるボランティア活動の展開、 文化財保護の研究等を推進してきました。

翌年から始めた復興教育では、従来の「いわて学」に復興の観点を取り入れると共に、新たなコア科目「ボランティアとリーダーシップ」と「危機管理と復興」を開講しました。

特別寄稿「復興へのメッセージ」は、ボランティア教員として、新たなコア科目をご担当頂いた先生方によるものです。 本年度でボランティア教員による授業担当は終了します。この4年間、中身の濃い授業と復興への熱い思いを伝えてい ただき、本当にありがとうございました。

これからも復興教育は続けますので、今後とも被災地を見守っていただければ幸いです。

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局

(岩手大学総務企画部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-8 TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

E-mail: ihatov5@iwate-u.ac.jp URL: http://www.ihatov-u.jp/

構 成

成 校

岩手県立大学宮古短期大学部 岩手医科大学 富士大学 盛出大学・盛岡大学短期大学部 放送大学岩手学習センター 一関工業高等専門学校

岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部・